

NUBIC知的財産情報開示

開示日： 2013年03月11日

各位

NUBIC知的財産情報の要約をお届けいたします。
尚、NUBICベンチャークラブ特別会員、一般会員にはすでにお知らせしています。

	NUBIC管理番号: <input type="text" value="2011000038"/>	整理番号 <input type="text" value="11625"/>	担当者 <input type="text" value="小野 洋一"/>
表 題	<input type="text" value="末端官能基化ポリオレフィン"/>		
技術分野	<input type="text" value="化学・薬品"/>	<input type="text" value="有機材料"/>	<input type="text"/>
適用製品	<input type="text" value="新規な末端反応性ポリオレフィン"/>		
目 的	<p>ポリオレフィンは一般的にコストパフォーマンスに優れ、廃棄時に有害な成分を排出しないことから、環境にもやさしい素材である。この特徴は近年、様々な素材をポリオレフィンで代替することで注目されている。しかしながら、化学的に安定な構造のため、塗装性や接着性など他の材料との親和性が非常に低いのが問題である。</p> <p>本発明では、ポリオレフィンの特徴を十分に引き出すことを目的として、分子鎖の末端にのみ官能基を効率よく導入する方法を目的とする。</p>		
技術概要	<p>官能基を導入したポリオレフィンには様々な方法で合成され、市販されている。一般的にはポリオレフィン、過酸化物及び極性モノマーを高温で混合することで、過酸化物から生成したラジカルがポリオレフィン主鎖の水素を引き抜き、ポリオレフィンの主鎖に生成したラジカルから極性モノマーが重合するというグラフト重合が一般的である。しかし、ポリオレフィンの主鎖を変性するため、ポリオレフィンの特徴がほとんど失われてしまう。</p> <p>本発明では、末端に官能基を有するポリオレフィンを用いて、反応効率が良く、副反応のないチオール-エン反応によりポリオレフィン主鎖の構造を保ったまま、末端にのみ官能基を導入することが特徴である。</p>		

技術移転等をご希望の場合は、下記事項をご記入の上、本用紙にてお申込みください。

(FAX, e-mail, 郵送いずれでも可。)

各担当コーディネーターからご連絡を差し上げます。

面談希望日時	<input type="text"/>		
(ふりがな) 氏 名	<input type="text"/>		
会社名	<input type="text"/>		
所 属	<input type="text"/>	役職	<input type="text"/>
電話番号	<input type="text"/>	FAX番号	<input type="text"/>
E-mail	<input type="text"/>		
連絡事項	<input type="text"/>		



【申込み・問い合わせ先】

日本大学産官学連携知財センター (NUBIC)

〒102-8275 東京都千代田区九段南4-8-24 日本大学会館

TEL: 03-5275-8139 FAX: 03-5275-8328 E-mail: nubic@nihon-u.ac.jp